

わが村は美しく

福島町編

第十二回 奨励賞

一般社団法人福島町まちづくり工房



美しい海岸や青の洞窟を巡る岩部クルーズ船から海の中を見ることができる。



クルーズの飲料としても土産としても人気のサイダーとレモネード。

お話をしてくれた人



一般社団法人福島町まちづくり工房 代表理事
平野 松寿 さん



青の洞窟クルーズを観光の目玉に！
黒米やエゾシカの活用など
多種多彩な商品開発でまちをアピール。

岩部クルーズを主軸に
魅力あるまちづくりを推進

道南に位置する福島町。一九八八年に開通した青函トンネルの北海道側の工事拠点として最盛期には人口が二万人を超えたこともあったが、現在は三四〇〇人程度となっている。

この福島町でユニークな活動をしているのが一般社団法人福島町まちづくり工房だ。代表理事 平野松寿さんはこう話す。

「一九七五年をピークに人口減少が進み深刻な課題になっていました。二〇一六年、福島町と町民有志が共同出資をして福島町まちづくり工房が設立されました。当初、私は出資者として参画していましたが、縁あつて代表を引き受けました」
設立直後から、クルーズ事業、商品開発などさまざまな

企画を二気にスタートさせた。「三十年ほど前、岩部地区では漁師さんが自分の漁船を使い、釣り客を中心に受け入れていました。その後、青の洞窟が話題になり旅行会社のクルーズツアーも盛んでしたが休止状態に。町から復活させたいとの依頼を受け、二年間のテスト運営を経て、二〇一九年の春から岩部クルーズ事業が本格化しました」。

クルーズ船は、海底が見られるグラスボートを町が所有する形で新造船した。運航は四月末から十月中旬まで。季節ごとに見どころも変化し、リピーターが多い。「南北海道で最も予約の取れないアクティビティとして人気が高く、年間で二〇〇〇人が乗船しています。悪天候による欠航もあり、予約数は倍以上の四五〇〇人でした。限界集落となつてしまった

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

福島町へは、JR北海道新幹線、新函館北斗駅、木古内駅^{きこない}から駅レンタカーを利用すると周辺地散策にも便利。木古内駅は道南いさりび鉄道の終発着駅で、福島町へは路線バスも連携している。毎年8月13日には「やるべ福島イカまつり&海峡花火大会」が開催。オリジナル商品は道の駅「横綱の里ふくしま」で購入できる。詳しい観光情報は、福島町観光協会などのHPを参考にしてください。
お問い合わせ／福島町まちづくり工房 ☎0139・46・7822



シカの角を活用したキャンプギアブランド「The Deers」商品を並べたコーナー



エゾシカのアカレス髄を使った犬のおやつ「カムカムシカジカ」。



五島軒とコラボした人気商品の「アワビカレー」をお土産としておすすめする平野さん。



神秘的空間「青の洞窟」を船で探検。見る時間によってブルーやエメラルドグリーンなど色も変化する。



開発した商品は道の駅「横網の里ふくしま」で販売。隣には横網千代の山・千代の富士記念館もある。



出発地点の岩部地区にある交流センター。オリジナル商品を扱う売店としても機能している。

岩部地区は今では年間数千人以上が訪れる人気スポットになりました」と平野さん。

自由な発想で商品開発
アワビカレー人気は横網級

福島町は千代の山、千代の富士と二人の横網の生誕の地でもある。「横網の町」として認知されている一方で、魅力的なお土産がないことが課題でした。そのため独自商品の開発にも力を入れていきます。町内はもとより広く道南の企業と連携して取り組んでいます」。

その二つが「青の洞窟サイダー」。

クルーズの拠点となる岩部地区には、飲料の自動販売機すらなかったそう。クルーズ利用者のニーズに応え、洞窟をイメージしたサイダーを道南企業のコアックブグラナで有名な(株)小原に製造を依頼。初回、最低ロット三〇〇〇本を一週間で売り切って製造元を驚かせました。その後『岩部海岸レモネード』などにも展開を広げています」。

また、特産品である蝦夷アワビを使ったカレー「福島町あわびカレー」を函館の五島軒とコラボし発売。「肉が高価だった時代、地元の家ではアワビやツブを使ってカレーを作っていました。いわばアワビカレーは福島町のソウルフード。一箱五三二円と高価な商品にも関わらず、大人気です」と平野さんの言葉が弾む。

また、町の特産品「黒米」を使った食べ切りサイズの「黒米ちゃん」もヒット商品に。白米に混ぜると桜色に炊き上がり、栄養価もアップするそう。

さらに地域のハンターと連携して、エゾシカの肉を犬用おやつとして開発。シカの角を活用したキャンプギアブランド「The Deers」を立ち上げた。この他にユニークな商品を多数開発。これらの商品は、道の駅「横網の里ふくしま」で販売している。店内に並ぶ商品を見れば、発想の豊かさが見えてくる。神秘的な青の洞窟クルーズを柱にして、まちづくり工房の挑戦は続いている。

また、特産品である蝦夷アワビを使ったカレー「福島町あわびカレー」を函館の五島軒とコラボし発売。「肉が高価だった時代、地元の家ではアワビやツブを使ってカレーを作っていました。いわばアワビカレーは福島町のソウルフード。一箱五三二円と高価な商品にも関わらず、大人気です」と平野さんの言葉が弾む。

また、町の特産品「黒米」を使った食べ切りサイズの「黒米ちゃん」もヒット商品に。白米に混ぜると桜色に炊き上がり、栄養価もアップするそう。

さらに地域のハンターと連携して、エゾシカの肉を犬用おやつとして開発。シカの角を活用したキャンプギアブランド「The Deers」を立ち上げた。この他にユニークな商品を多数開発。これらの商品は、道の駅「横網の里ふくしま」で販売している。店内に並ぶ商品を見れば、発想の豊かさが見えてくる。神秘的な青の洞窟クルーズを柱にして、まちづくり工房の挑戦は続いている。



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311(内線5685)

